

えほんの紹介

『ちいさなヒッポ』

マーシャ・ブラウン / 作 うちだりさこ / やく 偕成社



小さなかばのヒッポは生まれた時からお母さんのそばを離れたことがありません。お母さんはヒッポにかばの大事な言葉「グアオ」（“あぶない”とか“たすけて”）を教え、ヒッポは何度も練習しました。ある日、おとなのかばたちがねている間に、ヒッポはひとりであそびに出かけました。すると、そこへ金みどりの目をした大きな恐ろしいわにがすべりよって来たのです。さあ、大変！ヒッポはどうなったでしょう？「グアオ！」と叫べたでしょうか？

マーシャ・ブラウンの見事な版画が、母と子の愛情物語を美しく力強く描き出しています。

『あまがさ』 八島 太郎 / 作 福音館書店

3歳の誕生日に赤いながぐつとあまがさをもらったモモ。うれしくて雨の日が待ち遠しくてなりません。

この本は、モモが大人と手をつなぐ、はじめて自分のあまがさをさして一人で歩いた日の体験を描いています。かさの柄をしっかりと握った手や、表紙のきりつとしたモモの顔には「おとなのひとみたいに、まっすぐあるかなきゃ」という決意が表れています。

「ぼんぼろ、ぼんぼろ～」と、かさにあたる雨の音がモモを応援しているようです。

作者の八島太郎はニューヨークに住んでいた画家で、生まれ故郷の日本のかわいい桃にちなんで、娘にモモという名をつけました。後ろのページにはすっかり大きく美しくなったモモの姿があります。娘の成長を喜ぶ作者の幸せな気持ちが伝わってくるようです。



小さなおともだち ‘こわいお話だいすき’

もうすぐ4才のRちゃんは、妖怪やこわいお話がだいすきで、よく知っています。絵本の『あがりめ さがりめ』の最後のページも気に入っています（一つ目小僧がでてきます）。

ある夜のこと、プレイルームには誰もいないのに、中のトイレだけ電気がついていました。Rちゃんは気になってこわくなり、そっとママに「トイレの花子さんがいないか見てきて」と真顔でお願いしたそうです。

別の日のこと、悪者をやっつける変身ベルトのエンブレムがなくなり、みんなで探しましたがなかなか見つかりません。ママが「トイレじゃないの？」といっても、こわくてトイレにいけません。その後変身ベルト見つかったかな？

(Rちゃん、こわいのはお話だけだから、トイレはこわくないよ。)



夏さかし あなあきクイズ

○の中に入るひらがなを入れてね。夏らしいことばです。

- ① す○○
- ② ○ち○
- ③ ふ○り○
- ④ ひ○○り
- ⑤ あ○が○
- ⑥ にゅ○ど○○も
- ⑦ か○○おり
- ⑧ せ○○うき



あさひのこ⑧ ひまわり② けいりく④
 けいりく⑤ ひまわり⑦ ひまわり⑧ けいりく⑨
 ひまわり⑩ ひまわり⑪ ひまわり⑫

♪ 季節のわらべうた
 いちり
 にり
 さんり
 しりしりしり… (お尻)

(足の指先)
 (足首)
 (ひざ)
 (お尻)

くすぐり歌です。足や手や頭など体の先端から順番におさえて、だんだんお尻にせまっていって、こちよこちよこちよとくすぐります。赤ちゃんも大きい子も大笑いです。

